

「海の仕事へのパスポート」セミナーにおける船長講話
～山形県南陽市中学生に船員の仕事を紹介～

日本海事広報協会は海事産業の現場見学等を活用した海への興味・理解の増進を目的に、“船との出会い事業”を立ち上げており、当協会もその活動に協力しております。今般、同協会は活動の一環としてイベント「海の仕事へのパスポート」と題したキャリアセミナーを山形県南陽市にて、同市在住の中学生を対象に開催しました。同イベントの概要は以下の通りです。

【概要】

日時：2016年8月24日(水) 13:30～15:45

会場：南陽市文化会館

対象：南陽市在住の中学生約 900 名
(うち中学 2 年生は 300 名)

プログラム：

13:30～14:00 分科セミナー (第 1 回目)

14:15～15:00 基調講演 (全学年参加)

15:15～15:45 分科セミナー (第 2 回目)

目的：海に接する機会が少ない地域の児童たちへ海洋に関わる職種を伝えること、職業に関する知識の幅を持たせること、など。

実施団体：日本海事広報協会、山形県南陽市教育委員会

当協会からは、分科セミナーの一つとして田中俊弘常務理事が船長としての経験に基づく『船員という仕事』と題する講演を行いました。同セミナーの受講生は中学 2 年生の合計約 80 名。田中常務理事からは、船での生活から仕事の魅力、船の種類やスケールの大きさ等を含む海運の重要性について説明があり、受講生および引率の先生も、熱心に耳を傾けていました。



▲分科セミナーの様相

併行して、造船、港湾関連や海洋研究関連にいたるまで幅広い分野のセミナーも開催され、約 300 名の中学 2 年生は希望する 2 種(毎回約 40 名)を選択して参加しました。セミナー中は山形放送による取材も行われ、セミナーの様相は当日のニュースでも放映されました。

基調講演には、中学1・3年生も加わり約900名が受講。南陽市教育委員長の猪野 忠氏の挨拶では、内陸地域である南陽市中学生にとって今回のセミナーが未来の鍵となるようにとの期待が込められました。その後、東京海洋大学教授の黒川久幸氏より、海運の役割や現状についてデータや写真を含めた内容の基調講演が行われました。

当協会は、今後も皆様の生活を支える海運を広く知っていただくための活動を展開して参ります。

以上